

* Nコン 2020 新企画 *

5月18日、2020NHK 全国学校音楽コンクールが中止となり、全国の小中高生たちに衝撃が広がっていましたが、それに代わる新たな企画が6月12日発表されました。コロナ禍の閉塞感が現在でもまだ残っていますが、少しずつ明るい展望も見えてきました。

Facebookの公開グループ<ポストコロナの合唱活動を考えよう>(4月25日開設、5月10日閉鎖)の管理人・千葉敏行さんは、Nコン中止を受け、何らかの代替企画をやれないものかと心を砕いていましたが、今回の新企画発表で一安心していることでしょう。

Nコンは、昭和7年(1932)に児童唱歌コンクールとして、小学校145校の参加でスタートしました。その後、初めて小中高3部門が揃ったのは昭和27年(1952)のことでした。戦時中の中断を除くと今年の中止は初の出来事となります。

	小学校	中学校	高校	計
昭和27年(1952)	2,347	1,508	305	4,160
令和元年(2019)	769	1,072	501	2,342

NHKでは「Nコンは合唱の灯を決して絶やしません! 全国の児童・生徒の皆さんと一緒に、合唱を楽しむ企画をスタートすることを宣言します。…Nコン新企画は、困難な状況にあっても私たちに光をもたらしてくれる歌で、全国が一つになり、元気になることを目指します。」と表明しています。

学校単位と個人参加の2本立て

学校単位で参加する「2020 課題曲! みんなのハモリ場・かたり場(仮)」と名付けた“全国各地の皆さんの歌声を共有し、合唱について語れる広場”をHPに開設し、交流の場を提供します。

個人参加は「全国の最終学年のみんなで作る、歌声リレー(仮)」と称して、Nコン課題曲を集めたオリジナル版をリクエストによって作成します。メドレー曲のリクエストは、6月16日からHPにて募集が開始されました。

メドレーは、北海道/東北/関東甲信越/東海北陸/近畿/中国/四国/九州・沖縄で歌うパートを分担、リレー形式で歌いつなぎます。

http://mercuredesarts.com/2020/06/14/music-culture-in-japan-under-covid-19-2-tonoshita/?fbclid=IwAR3VNsnIOEgOLnzvKIK2P3eXatC7rWkbsb-blF62YW5RD_yvHRjX7kbno

企画は7月下旬開始予定、8月上旬「キックオフ番組」をEテレで放送、11月、特番「Nコン 2020 みんなのコンサート(仮)」をEテレで放送予定となっています。詳しくはNHKのHPをご覧ください。www.nhk.or.jp/ncon/

東京都合唱コンクール中止

東京都合唱連盟は6月17日、文京シビックホール大ホールにて開催(9月20~22日)を予定していた第75回東京都合唱コンクールの中止を発表しました。

都内で相変わらず収まらない新型コロナウイルス感染症の感染、公共施設・ホールの閉鎖状況、学校・部活動の再開状況、音楽授業における各種制限などを考慮し、中止に至ったとしています。

コンクールに替わる発表機会を検討中

本年度はおかあさんコーラス、合唱祭、コンクールが中止され、500団体以上の発表の場が失われており、コンクールに替わる何らかの対応を検討しています。10月末までに実施したい意向です。

特別企画 | 新型コロナウイルス感染症と日本の音楽文化-2-

戸ノ下達也さん(洋楽文化史研究会会長)がWeb音楽批評誌「メルキュール・デザール」に、新型コロナウイルス感染症と芸術文化の問題について、行政・立法・音楽界の観点から、考察した論考を寄稿しました。

行政(首相官邸・内閣官房)の対応、行政(文化庁、地方自治体)の対応、立法と政党の対応、音楽界の動き、等について、それぞれがどのような対応をしてきたかを丁寧に記録しています。

行政の対応について、どんなに安倍首相や萩生田文部科学大臣が「文化の灯を絶やしてはならない」と言っても、口先だけの方便で具体的施策を伴うことなく、この程度の支援しか実施されていないのがわが国の行政の現実である、と実際の予算に本音が出ている現状を憂えています。

戸ノ下さんは、多数の著書を見てもわかるが、つねに膨大な事実に基づいて分析し、課題を見つけ、将来像を描くというスタンスを信条としている方です。

「メルキュール・デザール」の寄稿文は下記のサイトにあります。